

明治二十三年（一八九〇）頃
絹本着色
二二七・四×一四四・七



伝来記録から明治二十三年（一八九〇）頃の制作と考
えられる大幅である。卓越した筆技、大胆な構図、迫
真的な猿の描写、そして洋画的表現の日本画への応用。
この絵を見れば、玉章がなぜ明治の日本画の先導者た
り得たか、その由縁が理解できる。

本図の制作時期にあたる明治二十年代、玉章は名実
ともに東京の画壇を代表する画家であった。事実、明
治二十三年には岡倉天心に請われる形で東京美術学校
の教授に就任し、また同年に自らも画塾を開いて多く
の門弟を抱える立場となった。

玉章の大きな特徴は、正統的な円山派の画風を受け

継ぎながら、洋画の表現を柔軟に取り入れた点にある。
自身も明治の初めに高橋由一に油彩画を習った玉章で
あったが、意外なことに明治三十一年の談話では「今の
少（わか）い先生方は兎角写生かぶれで、西洋画の真似
が好きな人が多い（中略）日本画特有の値がます／＼亡
くなりしはせぬか心配」（『太陽』四卷六号、明治三十一年
三月）と語っている。つまり、玉章の洋画の応用は決し
て目新しさだけを追い求めた表層的なものではなく、
そこには洋画表現を内包することで新たな日本画を創
出しようという志が根底にあったのである。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治美術の一断面——研ぎ澄まされた技と美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 82

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成三十年十一月三日発行

© 2018, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan